

私はこう 考える

「感性の豊かさを育てる」とは？

感性の豊かさとは

— 子どもたちとのふれ合いの中で —

槇谷厚子

(幼稚園園長)

感性の豊かさとは、という題を頂いて途方に暮れました。日ごろ子どもたちとの生活の中で、よく笑い、よく遊び、よくうれし涙を流し、時に世の中の出来事に嘆き、発奮しながらも、多少のことにはへこまない楽天的な私です。感性の豊かさについての文章を書かせていただくのはおこがましい気がしてなりません。でも子どもたちの日々の生活や、時折見せてくれる成長の姿からは、感性の豊かさにつながる思いを感じさせてもらえる時が多々あります。日々の生活の中で、心を弾ませたつぶりやさまざまな感情をかみしめていくことの大切さを痛感しています。これまでの子どもたちとの生活の中には、忘れられないエピソードがたくさんあります。その一つひ

とつが、その後の私の生活にヒントを与えてくれたり、パワーを与えてくれたりしています。それは、子どもたちの感性の豊かさによるものだと、改めて強く感じさせられます。

三歳児を担任していた二十年近く前のこと。すべての水道の水を全開にしては喜んでいるA君がいました。その都度声を掛けてはいたのですが、暑さも手伝って、水道の傍らにはいつもA君が！そして、ついに牛乳パックに水を入れて、ままごとコーナーまで運び、コップにかいがいしく注いで、水浸しにしてしまったことがあります。早生まれで、おっとりしているのですが、いざとなるとまっしぐらな

槇谷厚子（まきたにあつこ）

浦和のぞみ幼稚園園長。子ども時代を子どもらしく過ごせることを願って、たっぶりとした時間と空間を

A君です。まったく聞く耳を持たないA君に困ってしまい、「どうして、お水を持って行っちゃうの？」と苦し紛れに言うのと、しばらく考えたA君。「えーっ？ やってみようかなーって思ってた……」と、たどたどしい言葉を駆使してそう言うのです。何とかしてやめさせようと必死になっていた私は、拍子抜けしてしまったような思いもしましたが、何だか妙に腑に落ちた感覚を覚えました。それから、A君のその言葉を思い出して、まずその子の思いに心を寄せてみようと思えるようになりました。それからはいたずらと思えるようなことにも少しはゆとりを持つて受けとめられるようになりました。

ところが、その数年後、とにかくヤンチャなB君との出会いがありました。B君も年少組です。自分の思い通りにいかないと物に当たり、友達とのトラブルも次々起こります。私もまたまたゆとりどころではなく、うまくいきません……と焦る気持ちもいっぱいでした。毎日試行錯誤をしながらかかわっていました。

一緒に楽しめることも多くなって、やっと素直な思いも伝えてくれるようになっていたころ、事件は起きました。園庭の池の金魚をスコップですくい、次々と外に出しているではありませんか！ 急いで金魚を池に戻し、腰を下ろし、B君の手をぎゅっと握り、話していました。でも一方では、伝わっていないのか確信が持たずに迷っている私がありました。

そこへ救世主のように現れたのは、年長組のC君。その一部始終を見ていたようです。そして、ひと言、「でもさ、こいつお兄さんになったよね……」と言うのです。「どうして？」と言葉を失っている私にC君は続けます。「だってさ、先生の話、ちゃんと聞いてるよ」……そういえばそうです。少し前だったら私の手を振りほどいて、その場から立ち去りたくなっていたであろうB君が、一応私の話には耳を傾けているのです。はっとしました。お兄さんに思いがけず褒められたB君もホッとしたような顔をしています。「ほんとだね。B君お兄さんになった」と言うのと、大きくうなずいていたB君でした。小さな成長

をしっかり見ていくことの大切さを年長組のC君に
気付かされた私です。

そして、D君とのエピソードも私にとって忘れら
れないものです。D君は、今年中学生になりました。
今でもよく園に遊びに来てくれておしゃべりをし、
冗談を言って笑わせたり、自作の文章を朗読してく
れて私たちを号泣させたり（実に感動的なのです！）
しています。発達がゆっくりだったD君は、在園し
ていたころは言葉もなかなか出ませんでした。きつ
ともどかしい思いもあったと思います。でも当時、
園で飼っていたウサギが大好きで、暖かい日には日
向ぼつこをさせてくれようと大きなケージごと引つ
張ってテラスに出してくれたり、掃除が大好きで自
分の背よりも大きな箒（ほうき）を見事に使いこなして手伝っ
てくれたりと、優しさや好奇心にあふれていました。
そんなD君が小学校の特別支援学級に進み、一年
が過ぎようとしていたある日のことです。小学校と
の連絡会があり、学校へ出向き、D君のクラスをの

ぞきました。ところが突然いなくなってしまった上
級生を捜索（―）に行かれる先生方から、私は、D君
を含む数人の子どもたちと教室で留守番をするよう
御せつかりました。急なことで少し戸惑いましたが、
D君やほかの子どもたちに自己紹介をしたり声を掛
けたりしていました。すると、D君は私のことをチ
ラツと見てにつっこり笑ったかと思うと、その前の授
業で書かれたと思われる黒板の文字を大胆にも消し
始めました。そして、すっかり文字が消された黒板
に、何とすらすらとチョークで「あつこせんせい、
あつこせんせい、あつこせんせい」と大きく何回も
書いたではありませんか。私のことを、あつこせん
せい」と認識してくれていたとは思いますが、それ
までD君に口に出して呼ばれたこともなく、まして
や覚えたての文字で書いてくれるなんて……びっく
りすると同時に、D君の行動とあふれる思いに心が
震え、涙があふれてきました。でもまたすぐに消し
てしまったD君！ ちょっぴり得意げに、につっこり
笑っていました。夢のような一瞬の出来事でした。

そして、昨年の三月の誕生会のこと。年少組の三月生まれのE君は、遊び心もあり、楽しいのですが、とてもシャイです。三月生まれの年少さんですから、在園児の中では一番小さいことになります。誕生会では、その月生まれの人が冠をかぶり、ステージに上がり、自分の名前を言ったりインタビュに答えたりします。年長組、年中組と進み、いよいよE君の番になりました。名前は思いのほかすんなりと言えましたが、好きな食べ物は何ですか？ の質問には沈黙……。でも、嫌がる様子はまったくありません。少しして、客席の後方にいらしたお母さんに伺うと、「ウインナーかな？」と言ってくれました。しかし、はつきりと首を振るE君。ステージの下で聞いているみんなも、「言いたい！」というオーラをたつぷりと出しているE君の気持ちをちゃんと受けとめてくれることが伝わってきます。隣で緊張しながらもインタビュを終えたFちゃんは、「迷っちゃうんなら、一番じゃなくても、好きなのだったらいよいよ！」なんて小声でアドバイス。さすが年中

さんです。……どれほどの時間がたったでしょう。でも不思議なことに、せかすような空気はまったくなく、みんな根気強く待つていてくれました。そしてついに、「ハンバークー」とE君が答えたのです。満足そうな笑顔です。とびきり大きな拍手が、E君に向けられました。E君の、そしてみんなの成長も感じられた、うれしいほのほとした三月の誕生会となりました。

これまで、たくさん子どもたちと出会い、たくさんのお話を教えてもらってきました。日々のささやかな出来事の積み重ねが、子どもたちの感性を磨いているとつくづく感じさせられ、子どもたちの持つ感性の豊かさに驚かされます。そんな日々を子どもたちと共に過ごせることに感謝しつつ、これから一人ひとりの成長を願い、ていねいにかかわっていきたいと思います。それが自分自身の感性の豊かさにつながっていくことになるのかもしれない。